

21045	福祉心理学 Social Welfare and Psychology	1 年次～ 通年 4 単位	
担当者	望月 珠美	履修可能学科	E Pe Pc C W F N
		関連資格	心理(W)
サブタイトル	「福祉」のための心理学		
授業内容 ・ ねらい	<p>この講義では、人間の誕生から死に至るまでに生じるさまざまな事柄のなかでも特に社会福祉の現場とかかわりの深い話題を事例としてとりあげ、それらを取り掛かりにして講義を進めます。そして、高齢期における人生の完成や統合をはじめ子どもの健全育成をめざした臨床活動の事例等を題材として学ぶことを通して、社会福祉学と心理学が融合した総合的な支援のあり方について理解を深めていくことをめざします。</p> <p>講義では、新聞等に掲載された現代社会の負の側面を伝える記事等をきっかけにして、その内容や背景を正しく知るための解説や調べ学習等を行なうことを通して、福祉心理学に関連する基本的な知識の習得をめざします。あわせて、当事者の思いや生活背景、特性、ニーズや課題を踏まえた福祉心理臨床活動の実際を学ぶことを通して、心理学や社会福祉学をはじめとする自らの学びの専門性や将来像を明らかにしていくことをめざします。</p>		
授業計画	前期 1. オリエンテーション 2. 福祉心理学とは何か 3. 福祉心理学の目的 4. 福祉心理学の方法 5. 生涯発達と福祉心理学 6. 子どもとは何か 7. 子どもの成長と環境 8. 子どもにとっての家族 9. 子どもと集団 10. 現代社会と子ども 11. 子どもと社会 12. 子育て支援の現状1 (家族支援) 13・子育て支援の現状2 (地域支援) 14. これからの子どもと福祉 15. まとめ	後期 1. オリエンテーション 2. 差別と偏見の心理 3. 共生社会の創造 4. 障害理解 5. 学校生活と発達 6. 青年期の課題と集団 (1) 7. 青年期の課題と集団 (2) 8. 中年をめぐる課題 (1) 9. 中年をめぐる課題 (2) 10. 高齢期をめぐる課題 (1) 11. 高齢期をめぐる課題 (2) 13. 高齢期をめぐる課題 (3) 14. コミュニティの創造 15. まとめ (順番は前後することがあります。)	
教科書 参考書	授業時間内に適宜、紹介します。 参) 平野信義・坂原明 (2009) 『福祉心理学入門』 田研出版,2600円		
評価方法	出席状況を含む講義への参加態度 (小レポートや課題への取り組み) および2学期末試験あるいはレポートの結果から総合的に評価します。		
事前準備学習 履修条件等			